

【大分県国東市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末をはじめとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

国東市は、1人1台端末に学習支援ソフトAI型デジタルドリルや学習アプリを活用し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を充実させ、すべての学習の基盤となる情報活用能力の推進を行っていく。

また、長期入院や不登校の児童生徒のためにオンライン授業等のICTを活用した居場所づくりや学力の保障も行っていく。

環境を整えることによって「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実による、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す。

2. GIGA第1期の総括

令和3年度に1人1台端末を導入し、AI型デジタルドリル機能がついた学習支援ソフトを活用した家庭への持ち帰り、学級閉鎖時の学習保障、授業時の意思形成・発表時に活用してきた。

一方で、通信遅延、教員間の利用頻度の差等、ハード、ソフト両面での課題が発生したが、ハード面については、通信ネットワーク整備により解決が図られた。

ソフト面での解決に向けて、国東市ICT教育推進事業として、3期に分けて研究指定校・共同研究校を定めて実践を行い、市内ICT教育の普及・促進する取組を展開している。

また、整備された1人1台端末を活用した「主体的・対話的で深い学び」の実現のために、本市教職員研修に位置付けている本市教委主催の研修を年間1回実施している。

3. 1人1台端末の利活用方策

令和7年度に予定している1人1台端末更新を控え、「1」を実現するためICT環境整備を行い、以下の方策で利活用を推進する。

(1) 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実のために

国東市ICT教育推進事業の研究指定校における授業公開や、国東市教育委員会による研修を実施する。また、校務支援システムを活用し、児童生徒への最適な指導・支援ができるようにする。

以上の取組を通して、「児童生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面」「教職員と児童生徒がやりとりする場面」「児童生徒同士がやりとりする場面」「児童生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面」等での1人1台端末の活用率向上を目指す。

(2) 全ての児童生徒の学びの保障のために

端末が破損した場合でも、予備機の運用及び速やかな修繕を実施する体制を構築し、1人1台端末環境を維持する。